

# 「ボッチャ」上手になつたよ

中丹支援学校 補助具購入し子らが練習

福知山市私市、府立中丹支援学校(菅生和己校長)の子どもたちが、パラリンピック正式種目のスポーツ「ボッチャ」を楽しんでいる。今年度は、さらに多くの子どもが競技に親しめるようにと、補

助具のランプ(勾配台)を購入した。

昨年、府のオリンピック・パラリンピック教育推進校の指定を受けた同校は、ボッチャを3セット導入。小学部から高等部までの児童、生徒が授業などで活用している。

ボッチャは運動能力に障害のある人も楽しめるように考えられたもので、直径約10センチ、重さ270gほどのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当たったりして、目標球にどれだけ近づけられるかを競う。自力でボールを転がせない児童もランプを使うことで

楽しめる。

このほど、小学部1

組の稲津美咲さん(8)と伊浦百々果さん(11)が授業でボッチャに取り組んだ。伊浦さんはランプを使い、身ぶりや目線でパートナーの教員にランプの位置を伝え、セットされたボ

ールを押しして転がした。

自力でボールを投げた参加した稲津さんは「ボッチャは楽しいです。練習してボールを遠くに飛ばせるようになりました。もっとやりたい」と笑顔を見せていた。



ランプでボールを転がす伊浦さん(右)とそれを見る稲津さん